

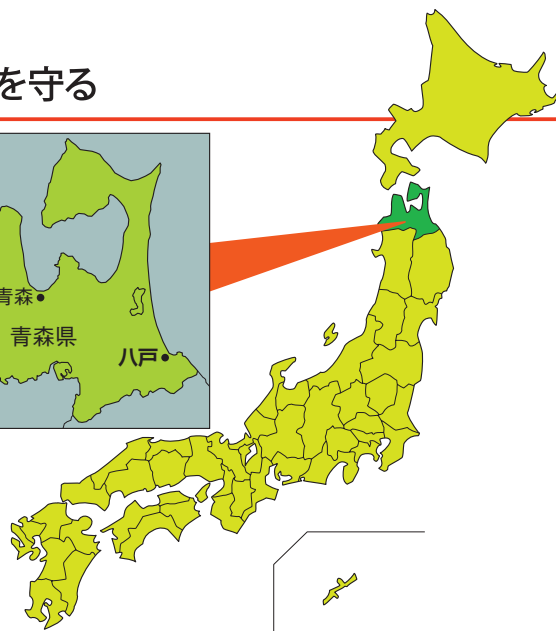
ニッポン・セメント工場探訪

地域に根ざし、環境を守る

8

AOMORI HACHINOHE

八戸セメント(株) 八戸工場



八戸市の発展と伴に歩む96年

北東北随一の工業都市である青森県八戸市で、大正時代に初めて誕生した大型近代工場である八戸セメント(株)は、県南東部に位置し、太平洋と日本海の物流並びに漁業の拠点である八戸港に面した臨海工場です。

当工場はその立地を活かし、震災復興途上にある東北地区をはじめとし、北海道から大需要地である関東地区と北陸地区等に向けて製品を出荷しています。

創業母体である日出セメントは、当時の内務大臣・原敬が、疲弊した地域経済を立て直すため、渋沢栄一等の財界人などを中心に設立した「東北振興会」により1918(大正7)年に創立。操業開始は1921(大正10)年です。1929(昭和4)年新制八戸市誕

生から、八戸港が1951(昭和26)年に重要港湾に、2003(平成15)年にリサイクルポートに指定される等、八戸市の発展とともに歩んできました。

現在、NSPキルン1基(SCS:200t/h)を有し、セメント生産能力は年産150万t、2013年度は130万tのセメントを生産しました(写真1、2)。

主原料である石灰石と製品は山元貯鉱場(八戸鉱山(株))と工場・八戸港を結ぶ、延長約10kmに及ぶ長距離地下ベルトコンベア(2ウェイ方式)により、環境に配慮し、長距離搬送されています(写真3)。

生産品種は普通ポルトランドセメント・早強ポルトランドセメント・高炉セメント・フライアッシュセメント・セメント系固化材となっています。



写真1 工場に沿って流れる新井田川で釣りを楽しむ市民



写真2 現在も現役の大正時代に建設されたセメントサイロ



写真3 地下ベルトコンベアのルート

廃棄物・副産物の使用状況

弊社では、1980(昭和55)年より本格的に廃棄物のリサイクルを開始しています。2013年度の廃棄物・副産物の受入量は約55万tで、セメント1t当たりの使用原単位は426kgとなっています。主な廃棄物は火力発電所から発生する石炭灰並びに「あおりエコタウン構想」に参画している企業等の焼却炉や自治体のごみ焼却炉から発生する焼却灰(約20万t)、汚泥(8万t)、建設発生土(8万t)、などです。国は循環型社会形成推進の一つとして、八戸港を2003年リサイクルポートに指定。さらに船舶を活用したモーダルシフト・輸送効率化による低炭素型静脈物流を推進しようとしています。

弊社では、廃棄物・副産物の広域収集をさらに拡大するため、八戸港ポートアイランド内に、専用保管庫を新設しました。この新設保管庫を活用して、新規汚泥廃棄物等の処理困難物を県外広域から受入、原燃料としてリサイクル処理を推進します。ま



写真4 八戸港におけるリサイクル原料の荷役



写真5 港頭原料系リサイクル保管庫

た、トラック輸送に関しても、鉄道輸送による環境負荷低減輸送効率化へのシフトも推進していきます(写真4、5)。

不法投棄廃棄物の撤去や 災害廃棄物処理に貢献

弊社は青森県の要請により国内最大級規模の青森・岩手県境不法投棄廃棄物全量撤去に2005年から2013年まで足掛け9年間、地域住民の理解と協力に加え、行政との連携強化により、全体撤去量115万tの内20万tを受入れリサイクル処理を実施しました。引き続き撤去現場の植樹等による再生事業にも積極的に支援協力を行っております。

また、この実績を踏まえ、東日本大震災で発生し



写真6 災害廃棄物の受入検査



写真9 安全体感訓練



写真7 災害廃棄物の最終受入



写真10 安全電光掲示板



写真8 木質チップ投入設備

た大量の災害廃棄物処理についても、行政、特に八戸市の強固な連携および地域住民の皆様方のご理解とご協力により、県内はもとより、岩手・宮城県の

広域処理をセメント業界で最も早く開始し、安全にかつ的確なりサイクル処理(全体数量10万t、内広域処理6万t)を実施し、震災復旧・復興に貢献することができました(写真6, 7)。

常に、「地域住民と地域経済の発展のために」を、基本理念とし、安全・安定操業を続けてきました。

今後とも東日本大震災被災地の復興のため、基礎資材であるセメント製品の安定供給に、全社一丸となり邁進してまいります。

省エネルギーへの取り組み

弊社では、省エネルギー型設備の導入も進めており、2014年10月には、高効率のクリンカークーラーシステムを導入しました。また2014年度には



写真11 小学生の工場見学



写真12 290年の歴史を持つ「八戸三社大祭」

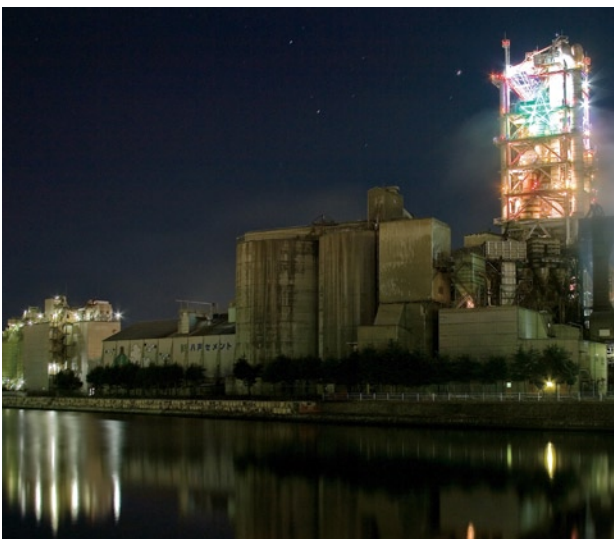


写真13 プレヒーターのイルミネーション
[出典：2014版八戸市勢要覧／八戸市総合政策部]

木質チップの保管庫・投入設備の増強を図り、バイオマスエネルギーの活用にも積極的に推進し、天然



写真14 NSPタワーを背に佐藤常務(左)と筆者

資源の節減および温存と二酸化炭素排出削減に努めています(写真8)。

またセメント粉碎ミルには予備粉碎機を設置しており、セメント製造電力原単位は業界でも上位のレベルを維持しております。

積極的な安全衛生活動

弊社は2014年6月に開催されたセメント協会主催の「第64回セメント安全衛生大会」で安全部門最高の栄誉である「安全大賞」を受賞しました。これは2007年から6年4か月以上の無災害継続によるものです。具体的には、当社並びに協力会社の管理者による定期パトロールによる不安全行動・不安全個所の有無確認とその是正・予防処置の実施。そして、現場第一線の作業員・作業責任者・新規入場者教育を実施しています。さらには安全体感教育や電光掲示板による注意喚起等も実施しています(写真9、10)。

現在も“ルールの周知徹底と相互注意により、安全意識の高揚を図る”という基本理念を念頭に安全安心な無災害職場づくりに努めています。

環境配慮と地域とのコミュニケーション

弊社は、工場内の緑化や環境整備はもちろんのこと地域社会の一員として工場周辺の清掃活動や工場見学・地域行事等を通して、さまざまな方との対話や交流を深め、地域に根差した活動を活発に推進しております。

「八戸三社大祭」等ではプレヒーターにイルミネーションを点灯させ、2008年に八戸市の景観賞を受賞しました。また2013年には、工場のある風景を活かし地域再生や観光につなげようとする「工

場アート」の取組みにも参画しました。引き続き、さまざまな活動を通して北の中核都市を目指す八戸市に貢献していきます(写真11～13)。

おわりに

弊社は、地域住民と共に生き、地域社会に貢献し、信頼される企業づくりを目指すとともに、インフラを支えるセメント資材の安定供給に努め、特に、東日本大震災の一日も早い被災地の復興に貢献してまいります(写真14)。

[八戸セメント(株) 八戸工場 取締役 鈴木昌二]